

# 建学の精神「敬天愛人」の具現化を目指して

敬愛大学 学長

## 土井 修



どい・おさむ氏

68年 東京大学経済学部経済学科卒業  
 76年 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学  
 77年 千葉敬愛経済大学経済学部専任講師  
 78年 同助教授  
 86年 同教授、86～87年ニューヨーク大学歴史学部客員研究員  
 88年 敬愛大学(旧称千葉敬愛経済大学)経済学部教授  
 89年 同大学経済文化研究所長  
 91年 同大学経済学部教務部長  
 92年 コロンビア大学東アジア研究所客員研究員  
 99～00年 ニューヨーク大学経済学部客員研究員  
 02年 東京大学経済学博士取得  
 03年 敬愛大学メディアセンター長  
 06年 敬愛大学学長。  
 著書は「米国資本のラテンアメリカ進出(1898～1932年)」,  
 「米国石油産業再編成と対外進出(1899～1932年)」他多数。

周知の通り、現在のように大学が激しい競争にさらされる時代にあっては、どの大学もさまざまな改革の努力をなされていると思いますが、われわれも教育体制や内容を一層充実させるべく、ここ数年、次々と新しい取り組みに着手してまいりました。

本学のような規模の小さな大学は、いかに大学の特色を出すかで、その存亡が決まってくるような気がいたします。その点、本学には本学園の創設者長戸路政司先生が今から87年前に提唱した「敬天愛人」という建学の精神があります。西郷隆盛が愛し、創業者の稲盛和夫氏が京セラの社是としている言葉としてご存知の方も多いのではないのでしょうか。天を敬い、人を愛すべしという一見シンプルなメッセージに見えますが、実は多様な解釈が存在しています。この意義深く、魅力あふれる言葉を、高校生や社会全般に向けて本学を広くアピールしていくフラッグシップとして、現在あらためて研究しなおしているところです。

具体的に申し上げますと、昨年各部局の代表からなる「敬天愛人会議」なるものを立ち上げました。そこでこの言葉の解釈を進めつつ、本年4月より敬愛大学において「敬天愛人講座」をスタートさせることにいたしました。「敬天愛人」という言葉から派生する11のテーマ(建学の理念、個性、品性と知性、命の尊厳性、青年期の心愛、ボランティア、平和の問題、環境問題、格差社会等々)を設定し、それぞれに担当教員を配し、学生たちと語り合いながら「敬天愛人」の現代的解釈を進めるとともに、人間関係のみならず社会自然との関係を含めたさまざまな問題を考え、「敬天愛人」の具現化を図ろうというものです。この講座は千葉敬愛短期大学、系列の4つの高校、附属幼稚園を含めた学園全体で展開し、さらには公開講座としても行う予定です。この講座を展開することによって、社会に向けてこの言葉と、本学園の存在意義を広く浸透させていくことを目指しております。

## キャリアセンター設立による就職力の強化

大学に対する社会的評価基準の一つは、就職力であり、就職力は就職率と就職先の質によって決まります。本学では、この就職力強化を目的として、昨年4月には従来の就職支援課を改組し、キャリアセンターを立ち上げました。キャリアセンターの役割は、就職支援の他にキャリア教育の企画立案にあります。教職員一体となって、キャリア教育・インターンシップ・就職活動を強力に支援していきたいと考えております。

## 3段階の相談体制で中退者を減らす

「大学全入時代」ならではの課題といえるかもしれませんが、中途退学の問題を抱える大学は少なくないでしょう。本学も対応に苦慮しておりますが、学生に対して3段階の相談体制を整えたことで、効果の兆しも見え始めました。

ひとつは「修学相談員」制度で、高校を退職した教員を2人招き、欠席がちな学生への対応や学生の履修や成績の相談に乗ってもらっています。比較的うまく機能しており、このおかげで、このところ中退者が減っている感触があります。ふたつめは「キャンパスサポーター」。こちらは大学を卒業したばかりの若いスタッフが、学生生活全般についてサポートしていくというものです。ラウンジに常駐コーナーを設けているため気軽に相談できるようで、学生からの評価は上々です。さらに従来から設けている「カウンセラールーム」では、学生のさまざまな悩みを受け付けています。こうした体制が中途退学といった問題のみならず、学生生活全般をさらに有意義なものにしていけると期待しております。

## 地域を愛し、地域に愛される大学として

本学は開学以来、千葉という地域に根ざした大学として発展してまいりました。地域を愛し、地域に愛される大学であり続けるために、さらなる地域貢献として一昨

年より「生涯学習講座」を立ち上げました。一般教養や経済・国際問題、スポーツ、情報処理など多くのジャンルを包括した本格的な市民講座として、市民の皆様からたくさんの反響をいただいております。

また、同様の主旨で、本学は「高校生論文コンテスト」を毎年開催しております。これまでに5回開催しましたが、毎年1000本あまりの論文が集まってまいります。そもそもは千葉県の高校生を主たるターゲットと考えておりましたが、ふたを開けてみると関東全域から応募があり、しかも学業レベルの高い生徒や高校からの応募が相次ぎ、驚いている次第です。こうしたことから、今後は全国の高校にこのコンテストの認知を広げていきたいと考えております。

以上のような取り組みと並行して、学部学科改組も進めております。もっとも特徴的なものは、昨年度より国際学部国際学科の中に「地域こども教育専攻」を設けたことでしょうか。小学校の英語必修化をにらみ、本学の「国際学」の学習を通じて「英語の教えられる国際感覚豊かな小学校教員」を養成するこの試みは、必ずや社会の要請に応えられるものと思っております。また、09年度には国際学部のキャンパスを現在の佐倉から経済学部のある稲毛キャンパスに移転することを計画しています。これまで2つに分かれていたキャンパスを統合することで、大学の一層の活性化を期待しています。

この統合を実現し、施設・設備の更なる充実を図るべく、現在稲毛キャンパスに新館を建設中で、本年11月には完成する予定です。経済学部の教育内容としましても、このところ経済学部の中で経営に関することを学ぶ学生が増えたことや、「敬天愛人」という理念をいかに具現化していくかという観点から、カリキュラムの改正等ソフト面での改革も進めていくつもりでおります。

このように本学はどんな状況にあっても立ち止まることなく、勇気を持って新たな取り組みに着手し続けることで、小規模ながらもキラリと光る品格ある大学であり続けたいと願っております。 ■